

雄物川上流山田堰改築工事の取り組みについて

雄物川上流山田堰改築工事

現場代理人 株式会社大林組 太田 親



堰軸右岸から（R7.2月）

1. はじめに

山田頭首工は、昭和27年に築造され、昭和45年の改築を経て現在の施設（固定堰）となっています。農業用の取水設備として利用されていますが、「固定堰」であるため降雨時に水位上昇が生じており、洪水時には流水の阻害となっています。

昭和62年8月洪水を契機に固定堰から可動堰へ改築することで、流下機能改善を目指して、『山田堰』としての改築事業に着手することになったものです。

2. 改築工事の概要

堰の改築は既存の構造物の基礎を

活かし、ゲートの開閉が出来る可動堰（SR合成起伏ゲート：ゲート設置は別工事）として生まれ変わり、洪水流下・取水位・魚道の確保により治水・利水・環境面の問題を解消します。

本工事の工期は、令和6年8月7日～令和9年3月19日です。本工事はⅠ期～Ⅲ期に分けて工事を進めていきます。

河道内での改築工事は非出水期（10月～3月）で行います。豪雪地域の中で、安全・品質を確保するため、大規模な雪寒仮囲いを設置し、寒中コンクリートの管理を徹底しました。出水期（4月～9月）は別ヤードで根固めブロックの製作を行います。

3. 環境への配慮

①振動・騒音

境界線に防音効果が高い防音パネルを設置します。また、振動・騒音測定器を敷地内境界線に設置し常にモニタリングを行います。騒音、振動と

もにあらかじめ指定した規制値を越えた場合は警報メールを発信させ、作業者への注意喚起、事務所内でも異常を把握し即座に対応します。

②粉塵対策

第Ⅰ期工事（令和6年度）は河川の右岸側の工事となり、国道13号線に近接した交通量の多い箇所が現場への進入口となりました。土砂運搬のダンプトラックだけでなく、護床、護岸工に用いるプレキャスト製品の搬入車両が多くなります。搬出前には場内に設置したタイヤ洗浄機を通過することを原則に、汚れが残るときには、高圧水を用いて人力でタイヤ洗浄しました。

4. おわりに

国道13号線からの進入による右岸側の第Ⅰ期工事が完了しました。令和7年度からは雄物川左岸側からの工事が本格化されます。雄物川山田堰の早期完成にむけて、地域住民の皆様とコミュニケーションを図り、今後も引き続き環境・安全対策に取り組んでまいります。



東北支店／宮城県仙台市青葉区上杉 1-6-11
日本生命仙台勾当台ビル ☎ 022-267-8511